

普及技術

平成 25 年度

ぶどう「シャインマスカット」の短梢せん定種なし栽培技術		
[要約] 短梢せん定種なし栽培に適する「シャインマスカット」の高品質果実生産が可能な着果管理技術を開発した。本技術は既存の平棚でのぶどう栽培に利用できるほか、水稲育苗ハウスを利用したブドウのアーチ栽培にも適用できる。		
農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

「シャインマスカット」は消費者の人気の非常に高く、本県における栽培適応性も高いため主力品種としての生産拡大が期待されている。そこで、「シャインマスカット」の短梢せん定種なし栽培技術を開発し、水稲育苗ハウスの有効活用技術も適用することにより複合営農の推進と高品質果実の早期供給拡大を可能とする。

[成果の内容・特徴]

- 「シャインマスカット」は短梢せん定を行うと、主枝 1m あたり 7～8 本の新梢が安定的に得られ(図 1)、着房も安定していることから、短梢せん定種なし栽培に適する。
- 着果管理方法
 - 花穂整形は花穂の先端部 3.5～5.0cm を使用し、出荷販売方法にあわせて花穂長を調整する(データ略)。
 - 種なし処理はジベレリンを用い、1 回目処理時にホルクロルフェニユロン液剤を添加して果房先端部の着粒不良を防止する。
 - 着房数は主枝 1m あたり 6 房を目標とし、無着房新梢を 2 本程度配置することにより果粒肥大や高糖度化を図る(図 2)。
 - 白色の果実袋では果皮色の黄化が早く外観品質が低下することから、遮光率の高い青色や緑色の果実袋を使用する(データ略)。
- 水稲育苗ハウスを利用したアーチ栽培

間口 5.4m 長さ 18m のハウスであれば 2.7m 間隔の片側 6 本植栽し、ハウス側面部の側枝誘引を行わないことで、4 年目に樹形が完成する(図 3)。収量は同樹齢のピオーネよりも多く、単価も高いため販売額は大きく上回る(図 4)。

[成果の活用面・留意点]

- 既存品種の短梢せん定種なし栽培の基本的な方法については、新潟県果樹栽培ハンドブックの「(11)平行整枝短梢せん定無核栽培」の項を参照する。
- 花穂整形方法とジベレリン処理方法については、平成 21 年度活用技術「ぶどう「シャインマスカット」種なし栽培の花穂整形と着粒安定技術」を参照する。
- アーチ栽培については農業総合研究所ホームページの「水稲育苗ハウスを利用したブドウのアーチ栽培技術」マニュアルを参照する。
- 「シャインマスカット」はべと病に弱いため、ハウス側窓からの雨の降り込みに注意する。

[具体的データ]

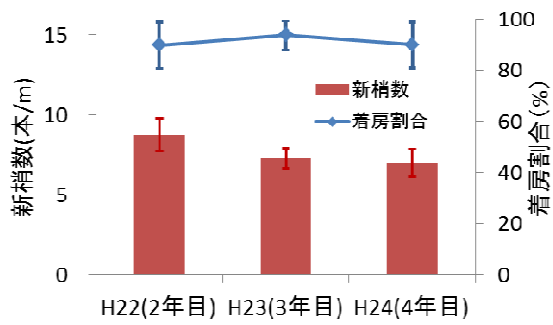


図1 主枝1mあたりの発生新梢数とその着房割合(短梢せん定)

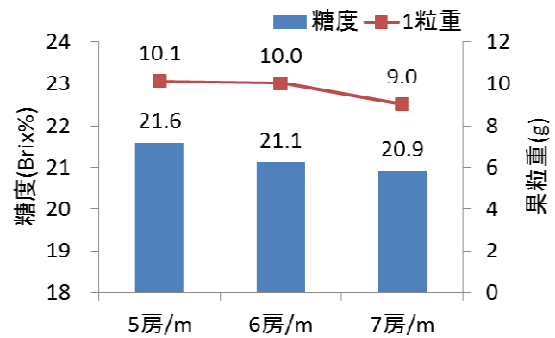


図2 主枝1mあたり着房数と果実品質の関係(短梢せん定、H22~H24平均)

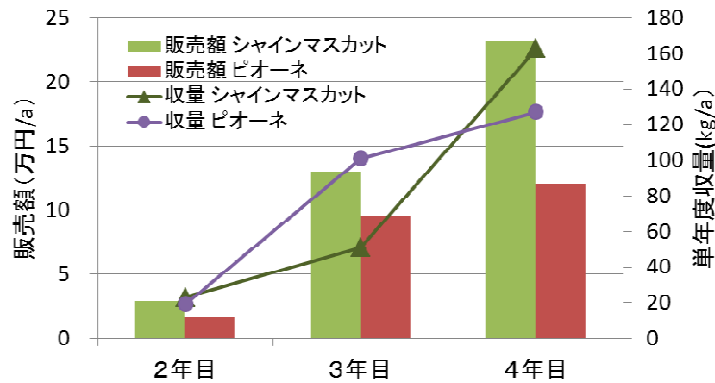


図4 アーチ栽培での販売額と単年度収量の推移
(シャインマスカットは6本/a、ピオーネは12本/a植栽で計算
シャインマスカットの販売単価は平均1580円/kg、
ピオーネの販売単価は平均950円/kgで販売)

[その他]

研究課題名：水稲育苗ハウスで高収益、早期に収穫できる果樹栽培技術の開発
 予算区分：県単特別
 研究期間：平成22~24年度
 発表論文等：なし